

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置（以下「業務の質の向上」と略記する。）		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画 家畜改良増殖目標・鶏の改良増殖目標 酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条、家畜改良増殖法第3条の4，同法35条の2第1項・第3項、種苗法第63条第1項、遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律第32条第1項・第3項、牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法第20条、牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法施行令第5条
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035 行政事業レビューシート事業番号：0279

2. 主要な経年データ														
② 主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
指標等	達成目標	基準値	X 1 年度	X 2 年度	X 3 年度	X 4 年度	X 5 年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
									予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
					業務実績	自己評価			
	第3 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 ＜以下略＞	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 ＜以下略＞	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 ＜以下略＞	指標＝「中項目の項目数×2」（満点）に対する「各中項目の点数の合計値」（合計点）の比率 各中項目の評価点数の区分は以下のとおりとする。 S評価：4点、A評価：3点、B評価：2点、C評価：1点、D評価：0点 A：満点×12/10≤合計点 B：満点×8/10≤合計点＜満点×12/10 C：満点×5/10≤合計点＜満点×8/10 D：合計点≤満点×5/10	＜主要な業務実績＞ ○家畜改良及び飼養管理の改善 2/2(B) ○飼料作物の増殖に必要な種苗の生産及び供給 2/2(B) ○飼料作物の種苗の検査 2/2(B) ○調査研究 2/2(B) ○講習及び指導 2/2(B) ○家畜改良増殖法に基づく検査等 2/2(B) ○牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法に基づく業務 2/2(B) ○センターの人材・資源を活用した外部支援 2/2(B)	＜評定と根拠＞ 「B」 満点：16P（中項目8×2P） 合計：16P 16P／16P＝1.0 （10／10）	評定	B	＜評定に至った理由＞ 下記のとおり、下位の評価項目である中項目の合計点がB評定の判定基準内（満点×8／10≤合計点＜12／10）であったため。 満点：16点（中項目8×2点） 合計点：16点＝2点×8 16点／16点＝1.0（10／10） ○家畜改良及び飼養管理の改善 ○飼料作物の増殖に必要な種苗の生産及び供給 2点（B） ○飼料作物の種苗の検査 2点（B） ○調査研究 2点（B） ○講習及び指導 2点（B） ○家畜改良増殖法に基づく検査等 2点（B） ○牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法に基づく業務 2点（B） ○センターの人材・資源を活用し外部支援 2点（B） 合 計 点 16点（B）

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ															
	①主要なアウトプット（アウトカム）情報								②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注						
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
										予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
										決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
										経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
										経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
										行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
										従事人員数	991	981	972	966	
										（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
					業務実績	自己評価			
	1 家畜改良及び飼養管理の改善など ＜以下略＞	1 家畜改良及び飼養管理の改善等 ＜以下略＞	1 家畜改良及び飼養管理の改善等 ＜以下略＞	指標＝「小項目の項目数×2」（満点）に対する「各小項目の点数の合計値」（合計点）の比率 各小項目の評価点数の区分は以下のとおりとする。 S評価：4点、A評価：3点、B評価：2点、C評価：1点、D評価：0点 A：満点×12/10≦合計点 B：満点×8/10≦合計点＜満点×12/10 C：満点×5/10≦合計点＜満点×8/10 D：合計点≦満点×5/10	◇乳用牛 2/2(B) ◇肉用牛 2/2(B) ◇豚 2/2(B) ◇鶏 2/2(B) ◇馬 2/2(B) ◇めん羊・山羊 2/2(B) ◇家畜の飼養管理の改善 2/2(B) ◇家畜伝染性疾病に対するリスク管理の強化 1/2(C) ◇家畜の遺伝資源の保存 2/2(B)	＜評定と根拠＞ 「B」 満点：18P(小項目9×2P) 合計：17P 17P/18P＝0.94(9.4/10)	評価 B	＜評定に至った理由＞ 下記のとおり、下位の評価項目である小項目の合計点がB評定の判定基準内(満点×8/10≦合計点＜12/10)であったため。 満点：18点(小項目9×2点) 合計点：17点＝2点×8＋1点 17点/18点＝0.94(9.4/10)	
								◇乳用牛 2点(B) ◇肉用牛 2点(B) ◇豚 2点(B) ◇鶏 2点(B) ◇馬 2点(B) ◇めん羊・山羊 2点(B) ◇家畜の飼養管理の改善 2点(B) ◇家畜伝染性疾病に対するリスク管理の強化 1点(C) ◇家畜の遺伝資源の保存 2点(B) 合計点 17点	

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-（1）	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 （1）乳用牛		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
									予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
									（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
					業務実績	自己評価	評価		
	酪農経営における生産性向上に資するため、センターは乳用牛の生涯生産性の向上を図る。具体的には、センターが自ら泌乳持続性の高い種畜等を生産し、必要に応じて供給を行うとともに、泌乳持続性等を反映した新たな総合指数に基づいて全国同一基準による遺伝的能力評価を実施し、関係者にその結果を周知することで、泌乳曲線を平準化させた泌乳持続性が高い乳用牛への改良を進めつつ、引き続き泌乳能力や体型、飼料利用性の向上及び繁殖性・抗病性の全国的な改良を進める。併せて、ジャージー種及びブラウンスイス種といった多様な品種について遺伝的能力評価等によつての改良を推進する。 ＜以下略＞	（１） 乳用牛 酪農経営における生産性向上に資するため、センターは乳用牛の生涯生産性の向上を図る。具体的には、センターが自ら泌乳持続性の高い種畜等を生産し、必要に応じて供給を行うとともに、泌乳持続性等を反映した新たな総合指数に基づいて全国同一基準による遺伝的能力評価を実施し、関係者にその結果を周知することで、泌乳曲線を平準化させた泌乳持続性が高い乳用牛への改良を進めつつ、引き続き泌乳能力や体型、飼料利用性の向上及び繁殖性・抗病性の全国的な改良を進める。併せて、ジャージー種及びブラウンスイス種といった多様な品種について遺伝的能力評価等によつての改良を推進する。 ＜以下略＞	（１） 乳用牛 ＜以下略＞	指標＝「細項目の項目数×２」（満点）に対する「各細項目の点数の合計値」（合計点）の比率 各細項目の評価点数の区分は以下のとおりとする。 S評価：４点、A評価：３点、B評価：２点、C評価：１点、D評価：０点 A：満点×１２／１０≤合計点 B：満点×８／１０≤合計点＜満点×１２／１０ C：満点×５／１０≤合計点＜満点×８／１０ D：合計点≤満点×５／１０	□全国的乳用牛の改良推進 2/2(B) □後代検定の推進 2/2(B) □遺伝的能力の評価・公表 2/2(B) □総合指数 2/2(B) □評価手法の改善 2/2(B) □ジャージー種の遺伝的能力の評価の公表 2/2(B) □ブラウンスイス種の遺伝能力評価 2/2(B) □優良な候補種雄牛等の生産・供給 2/2(B) □SNP情報の活用 2/2(B) □泌乳持続性に優れる改良用雌牛の作出 2/2(B) □泌乳能力に優れる改良用雌牛の生産 2/2(B) □候補種雄牛の待機業務終了 2/2(B)	＜評定と根拠＞ 「B」 満点：２４P(細項目１２×２P) 合計：２４P ２４P／２４P＝１．０(10/10)	評価 B	＜評定に至った理由＞ 下記のとおり、下位の評価項目である細項目の合計点がB評価の判定基準内（満点×８／１０≤合計点＜１２／１０）であったため。 満点：２４点（小項目１２×２点） 合計点：２５点＝２点×１１＋３点 １３点／１２点＝１．０４（１０．４／１０） □全国的乳用牛の改良推進 ２点(B) □後代検定の推進 ２点(B) □遺伝的能力の評価・公表 ２点(B) □総合指数 ２点(B) □評価手法の改善 ２点(B) □ジャージー種の遺伝的能力の評価の公表 ２点(B) □ブラウンスイス種の遺伝能力評価 ２点(B) □優良な候補種雄牛等の生産・供給 ２点(B) □SNP情報の活用 ２点(B) □泌乳持続性に優れる改良用雌牛の作出 ２点(B) □泌乳能力に優れる改良用雌牛の生産 ３点(A) □候補種雄牛の待機業務終了 ２点(B) 合 計 点 ２５点	

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(1)-ア	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1) 乳用牛 ア 全国的な乳用牛の改良推進		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
									予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
									（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
					業務実績	自己評価		
	（ア） 全国的な乳用牛の改良推進を図るため、農林水産省、都道府県、関係団体、生産者及び学識経験者との意見・情報交換において、積極的に指導的役割を果たすとともに、都道府県、関係団体などとの役割分担の明確化を図る。	（ア） 全国的な乳用牛の改良推進を図るため、センターが農林水産省、都道府県、関係団体、生産者及び学識経験者を参集して会議を開催し、我が国における家畜改良の方向性に沿ったセンターの業務のあり方について意見・情報交換を行い、業務に反映する。また、農林水産省、都道府県、関係団体等が開催する家畜改良に関する各種会議に積極的に参画し、技術的助言、連携協力を行う等指導的な役割を果たす。	ア 農林水産省、都道府県、関係団体、生産者及び学識経験者の参画を得て、全国的な乳用牛の改良推進に関する会議を開催し、センターが実施する遺伝的能力評価、種畜の作出等のあり方について意見・情報交換を行う。また、農林水産省、都道府県、関係団体等が開催する家畜改良に関する各種会議に積極的に参画する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた。 A：計画を上回る成果が得られた。 B：計画どおり順調に実施された。 C：計画どおり実施されず改善を要する。 D：計画どおり実施されず当該業務の廃止を含めた抜本的な改善が必要と認められる。	＜主要な業務実績＞ 農林水産省、関係団体及び学識経験者の参画を得て、全国的な乳用牛の改良推進に関する会議を3回開催し、センターが実施する遺伝的能力評価、種畜の作出等のあり方について意見・情報交換を行った。また、関係団体等が開催する家畜改良に関する各種会議に積極的に参画し、計画どおり実施した。	＜評定と根拠＞ 「B」 根拠： ・計画どおり実施した。	評定	B
							＜評定に至った理由＞ 農林水産省、関係団体及び学識経験者の参画を得て、乳用牛の改良推進に関する会議を開催し、センターが実施する遺伝的能力評価、種畜の作出等のあり方について意見・情報交換を行うなど全国的な乳用牛の改良推進に取り組んだことから「B」評定とした。	

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(1)-イ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1) 乳用牛 イ 後代検定の推進		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
指標等	達成目標	基準値	X 1 年度	X 2 年度	X 3 年度	X 4 年度	X 5 年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
									予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
									（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
					業務実績	自己評価		
	(イ) 遺伝的能力の高い検定済種雄牛の精液を供給するため、全国同一基準による遺伝的能力評価に基づいた後代検定を推進する。	(イ) 全国同一基準による遺伝的能力評価に基づき、後代検定の実施を推進するための会議を開催し、技術的助言、連携協力を行う等後代検定に関する推進母体としての役割を果たす。	イ 能力の高い検定済種雄牛の選抜・利用を推進するため、後代検定に関する会議を開催し、後代検定の実施計画の策定等について技術指導等を行う。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた。 A：計画を上回る成果が得られた。 B：計画どおり順調に実施された。 C：計画どおり実施されず改善を要する。 D：計画どおり実施されず当該業務の廃止を含めた抜本的な改善が必要と認められる。	<主要な業務実績> 後代検定に関する会議として、「全国乳用牛改良技術検討会」及び「全国乳用牛改良推進会議」を開催し、候補種雄牛を確保するためのガイドラインを作成するとともに、後代検定事業に係る実施計画の策定等について技術的指導等を行い、計画どおり実施した。	<評定と根拠> 「B」 根拠： ・計画どおり実施した。	評定	B
							<評定に至った理由> 「全国乳用牛改良技術検討会」及び「全国乳用牛改良推進会議」を開催し、候補種雄牛を確保するためのガイドラインを作成するとともに、後代検定事業に係る実施計画の策定等について技術的指導を行うなど計画どおり後代検定の推進を実施したことから「B」評定とした。	

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(1)-ウ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1) 乳用牛 ウ 遺伝的能力の評価・公表		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ																
	①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注						
	指標等	達成目標	基準値	X 1 年度	X 2 年度	X 3 年度	X 4 年度	X 5 年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	
											予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
											決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
											経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
											経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
											行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
											従事人員数	991	981	972	966	
											（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
					業務実績	自己評価		
	(ア) ホルスタイン種について、生涯生産性の向上を図る観点から、泌乳持続性の評価形質を組み入れて、総合指数を新たに作成するとともに、遺伝子解析技術（SNP）を活用した解析技術を導入するなど、効率的かつ精度の高い遺伝的能力評価を行い、全国的に改良を進める。	(ア) ホルスタイン種について、種雄牛及び雌牛の遺伝的能力評価を毎年2回以上定期的に実施し公表する。また、種雄牛の国際能力評価機関（インターブル）から得られる年3回の海外の遺伝的能力評価に関する情報を定期的に提供する。	ウ ホルスタイン種について、種雄牛及び雌牛の遺伝的能力評価を2回以上定期的に実施し公表する。また、種雄牛の国際能力評価機関（インターブル）から得られる年3回の海外の遺伝的能力評価に関する情報を定期的に提供する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた。 A：計画を上回る成果が得られた。 B：計画どおり順調に実施された。 C：計画どおり実施されず改善を要する。 D：計画どおり実施されず当該業務の廃止を含めた抜本的な改善が必要と認められる。	<主要な業務実績> ホルスタイン種について、種雄牛の遺伝的能力評価を2回、雌牛の遺伝的能力評価を4回定期的に実施し公表したほか、インターブルから得た海外の遺伝的能力評価に関する情報を3回定期的に提供し、計画どおり実施した。	<評定と根拠> 「B」 根拠： ・計画どおり実施した。	評定	B
							<評定に至った理由> ホルスタイン種について、種雄牛の遺伝的能力評価を2回、雌牛の遺伝的能力評価を4回定期的に実施し公表したほか、インターブルから得た海外の遺伝的能力評価に関する情報を3回定期的に提供し、計画どおり遺伝的能力の評価・公表に取り組んだことから「B」評価とした。	

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(1)-エ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1) 乳用牛 エ 総合指数		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ																	
	①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注							
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度				H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	
												予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
												決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
												経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
												経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
												行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
												従事人員数	991	981	972	966	
												（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	（ア）ホルスタイン種について、生涯生産性の向上を図る観点から、泌乳持続性の評価形質を組み入れて、総合指数を新たに作成するとともに、遺伝子解析技術（SNP）を活用した解析技術を導入するなど、効率的かつ精度の高い遺伝的能力評価を行い、全国的に改良を進める。	（イ）ホルスタイン種の総合指数について、学識経験者等改良関係者の意見を聞きながら、泌乳持続性の評価形質を組み入れたものを作成する。また、その他の形質について総合指数への反映を検討する。	エ 学識経験者等改良関係者の意見を聞きながら、泌乳持続性を組み入れたホルスタイン種の総合指数を作成する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた。 A：計画を上回る成果が得られた。 B：計画どおり順調に実施された。 C：計画どおり実施されず改善を要する。 D：計画どおり実施されず当該業務の廃止を含めた抜本的な改善が必要と認められる。	＜主要な業務実績＞ 総合指数に関する検討会を開催し、学識経験者等改良関係者の意見を聞きながら、泌乳持続性を組み入れた総合指数を作成し、計画どおり実施した。	＜評定と根拠＞ 「B」 根拠： ・計画どおり実施した。	評定 B ＜評定に至った理由＞ 計画どおり、総合指数に関する検討会を開催し、学識経験者等改良関係者の意見を聞きながら、泌乳持続性を組み入れた総合指数を作成したことから「B」評定とした。

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(1)-オ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1) 乳用牛 オ 評価手法の改善		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット（アウトカム）情報										②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注				
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
									予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
									（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	(ア) ホルスタイン種について、生涯生産性の向上を図る観点から、泌乳持続性の評価形質を組み入れて、総合指数を新たに作成するとともに、遺伝子解析技術（SNP）を活用した解析技術を導入するなど、効率的かつ精度の高い遺伝的能力評価を行い、全国的に改良を進める。	(ウ) ホルスタイン種について、遺伝的能力の評価技術に関する検討会を毎年開催し、SNP（一塩基多型）情報を活用する等精度の高い遺伝的能力評価手法の開発に取り組む。	オ ホルスタイン種について、遺伝的能力の評価技術に関する検討会を開催し、SNP（一塩基多型）情報を活用した遺伝的能力評価手法の改善に取り組むほか、産次を考慮した変量回帰検定日モデルの導入等について検討する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた。 A：計画を上回る成果が得られた。 B：計画どおり順調に実施された。 C：計画どおり実施されず改善を要する。 D：計画どおり実施されず当該業務の廃止を含めた抜本的な改善が必要と認められる。	<主要な業務実績> ホルスタイン種について、SNP情報を活用した遺伝的能力評価を年4回公表するとともに、遺伝的能力評価技術に関する検討会を開催し、未評価形質の評価方法を検討したほか、産次を考慮した変量回帰検定日モデルの導入について検討し評価結果を公表し、計画どおり実施した。	<評定と根拠> 「B」 根拠： ・計画どおり実施した。	評定 B <評定に至った理由> ホルスタイン種について、SNP情報を活用した遺伝的能力評価を年4回公表するとともに、遺伝的能力評価技術に関する検討会を開催する等計画どおり評価手法の改善に取り組んだことから「B」評定とした。

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(1)-カ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1) 乳用牛 カ ジャージー種の遺伝的能力の評価・公表		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ															
	①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
										予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
										決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
										経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
										経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
										行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
		従事人員数	991	981	972	966									
		（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)									

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
					業務実績	自己評価		
	(イ) ジャージー種について、引き続き遺伝的能力評価を実施し、改良を進める。	(エ) ジャージー種について、牛群検定データの収集可能な雌牛全頭について、毎年2回定期的に遺伝的能力を評価し、公表する。	カ ジャージー種について、牛群検定データの収集可能な雌牛全頭について、2回定期的に遺伝的能力を評価し、公表する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた。 A：計画を上回る成果が得られた。 B：計画どおり順調に実施された。 C：計画どおり実施されず改善を要する。 D：計画どおり実施されず当該業務の廃止を含めた抜本的な改善が必要と認められる。	<主要な業務実績> ジャージー種に係る牛群検定データの収集可能な雌牛全頭について、2回定期的に遺伝的能力を評価し公表するなど、計画どおり実施した。	<評定と根拠> 「B」 根拠： ・ 計画どおり実施した。	評定	B
							<評定に至った理由> 計画どおり、ジャージー種に係る牛群検定データの収集可能な雌牛全頭について定期的に遺伝的能力を評価し公表したことから「B」評定とした。	

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(1)-キ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1) 乳用牛 キ ブラウンスイス種の遺伝的能力評価		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
指標等	達成目標	基準値	X 1 年度	X 2 年度	X 3 年度	X 4 年度	X 5 年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
									予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
									（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	(ウ) ブラウンスイス種について、遺伝的能力評価の実施に向けた試行に取り組む。	(オ) ブラウンスイス種について、牛群検定データの収集状況を踏まえ、遺伝的能力の評価技術に関する検討会を毎年少なくとも1回開催し、平成27年度までに雌牛の遺伝的能力評価に向けた試行を行う。	キ ブラウンスイス種について、遺伝的能力の評価技術に関する検討会を開催し、牛群検定データと血縁データを照合の上、乳期モデルによる試行に向けた検討を行う。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた。 A：計画を上回る成果が得られた。 B：計画どおり順調に実施された。 C：計画どおり実施されず改善を要する。 D：計画どおり実施されず当該業務の廃止を含めた抜本的な改善が必要と認められる。	＜主要な業務実績＞ ブラウンスイス種について、遺伝的能力の評価技術に関する検討会を開催し、牛群検定データと血縁データを照合の上、評価モデルの検討を行い、計画どおり実施した。	＜評定と根拠＞ 「B」 根拠： ・計画どおり実施した。	評定 B ＜評定に至った理由＞ 計画どおり、遺伝的能力の評価技術に関する検討会を開催し、牛群検定データと血縁データを照合の上、評価モデルの検討を行ったことから「B」評定とした。

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(1)-ク	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1) 乳用牛 ク 優良な候補種雄牛等の生産・供給		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号、第2号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
									予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
									（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	(ア)「家畜改良増殖目標」の育種価目標を基に、我が国の飼養環境（気候、風土、飼料・飼養形態など）に適した優良な種畜生産に取り組むとともに、泌乳持続性や体型など生涯生産性の向上を図る。	(ア) 家畜改良増殖目標の育種価目標を基に、多様な育種素材の導入を行い、我が国の飼養環境（気候、風土、飼料・飼養形態等）に適した優良な種畜生産に取り組むとともに、民間では取り組み難い未經産採卵技術とドナーの集合検定を組み合わせた高度な繁殖技術等を活用し、泌乳持続性や体型等に優れ、生涯生産性が高い種畜を生産・供給する。	ク ホルスタイン種について、多様な育種素材の導入を行い、優良な牛群を整備する。 未經産採卵技術の活用及びドナーの集合検定により、生涯生産性が高い候補種雄牛を生産・供給する。 後代検定中の種雄牛の精液を活用し、ドナーの3産次までの集合検定を行い、生涯生産性が高い候補種雄牛の生産を行う。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた。 A：計画を上回る成果が得られた。 B：計画どおり順調に実施された。 C：計画どおり実施されず改善を要する。 D：計画どおり実施されず当該業務の廃止を含めた抜本的な改善が必要と認められる。	<主要な業務実績> ホルスタイン種について、多様な育種素材の導入を行い、優良な牛群を整備した。また、未經産採卵技術の活用及びドナーの集合検定により、生涯生産性が高い候補種雄牛を生産し、34頭の候補種雄牛を供給した。さらに、ドナーの3産次までの集合検定を行い、生涯生産性が高い候補種雄牛を生産し、1頭の候補種集牛を供給し、計画どおり実施した。	<評定と根拠> 「B」 根拠： ・計画どおり実施した。	評定 B ＜評定に至った理由＞ 計画どおり、ホルスタイン種について、多様な育種素材の導入を行い、優良な牛群を整備するとともに、未經産採卵技術の活用及びドナーの集合検定により、生涯生産性が高い候補種雄牛を生産したことから「B」評定とした。

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(1)-ケ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1) 乳用牛 ケ SNP 情報の活用		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット（アウトカム）情報										②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注				
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
									予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
									（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	(イ) 遺伝的及び能力的な多様性の確保に配慮しつつ、SNP遺伝子解析技術を活用した候補種雄牛などの生産・供給に努める。	(イ) 候補種雄牛及び改良用雌牛の生産・供給に当たっては、SNP情報を活用した遺伝的能力評価値をもとに、精度の高い選定を行う。	ケ ホルスタイン種について、SNP情報を活用した遺伝的能力評価値をもとに、候補種雄牛及び改良用雌牛の生産を行う。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた。 A：計画を上回る成果が得られた。 B：計画どおり順調に実施された。 C：計画どおり実施されず改善を要する。 D：計画どおり実施されず当該業務の廃止を含めた抜本的な改善が必要と認められる。	＜主要な業務実績＞ ホルスタイン種について、SNP情報を活用した遺伝的能力評価値をもとに、候補種雄牛及び改良用雌牛の生産を行い、計画どおり実施した。	＜評定と根拠＞ 「B」 根拠： ・計画どおり実施した。	評定 B ＜評定に至った理由＞ 計画どおり、SNP情報を活用した遺伝的能力評価値をもとに、候補種雄牛及び改良用雌牛が生産されたことから「B」評定とした。

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(1)-コ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1) 乳用牛 コ 泌乳持続性に優れる改良用雌牛の作出		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット（アウトカム）情報										②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注				
指標等	達成目標	基準年	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
									予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
									（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	（ウ）高い泌乳持続性を有する優良な候補種雄牛などを生産・供給するため、泌乳持続性の遺伝評価値が平均以上で、家畜改良増殖目標の育種価目標数値（乳量113kg／年、乳脂肪2.6kg／年、無脂乳固形分9.2kg／年、乳蛋白質2.9kg／年）以上の遺伝的能力を有する改良用雌牛を生産する。	（ウ） 高い泌乳持続性を有する優良な候補種雄牛等を生産・供給するため、受精卵移植技術と3産次までのドナーの泌乳持続性を明らかにするドナーの集合検定システムを活用することにより、泌乳持続性において評価成績が平均以上の優良な改良用雌牛を作出する。	コ ホルスタイン種について、高い泌乳持続性を有する優良な候補種雄牛等を生産・供給するため、ドナーの3産次までの集合検定を行う。また、泌乳持続性の遺伝的能力評価成績が全国平均以上の改良用雌牛を作出する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた。 A：計画を上回る成果が得られた。 B：計画どおり順調に実施された。 C：計画どおり実施されず改善を要する。 D：計画どおり実施されず当該業務の廃止を含めた抜本的な改善が必要と認められる。	＜主要な業務実績＞ ホルスタイン種について、高い泌乳持続性を有する優良な候補種雄牛等を生産・供給するため、ドナーの3産次までの集合検定を行うとともに、泌乳持続性の遺伝的能力評価成績が全国平均以上の改良用雌牛を270頭作出し、計画どおり実施した。	＜評定と根拠＞ 「B」 根拠： ・計画どおり実施した。	評定 B ＜評定に至った理由＞ 計画どおり、泌乳持続性の遺伝的能力評価成績が全国平均以上の改良用雌牛を作出したことから「B」評定とした。

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(1)-サ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1) 乳用牛 サ 泌乳能力に優れる改良用雌牛の生産		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号、第2号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
指標等	達成目標	基準値	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
遺伝的改良量										予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261
乳量（kg／年）	113kg		354.1kg	230.8kg	221.1kg	186.6kg				決算額(千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191
乳脂肪量（同上）	2.6kg		11.4kg	9.1kg	9.3kg	7.5kg				経常費用(千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680
無脂乳固形分（同上）	9.2kg		26.3kg	19.0kg	17.7kg	15.7kg				経常利益(千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619
乳タンパク量（同上）	5.9kg		9.7kg	7.2kg	6.6kg	5.9kg				行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420
										従事人員数	991	981	972	966
										（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	(ウ) 高い泌乳持続性を有する優良な候補種雄牛などを生産・供給するため、泌乳持続性の遺伝評価値が平均以上で、家畜改良増殖目標の育種価目標数値（乳量113kg／年、乳脂肪2.6kg／年、無脂乳固形分9.2kg／年、乳蛋白質2.9kg／年）以上の遺伝的能力を有する改良用雌牛を生産する。	(エ) 未経産ドナーの集合検定システムを活用することにより、家畜改良増殖目標の育種価目標数値（乳量113kg／年、乳脂肪2.6kg／年、無脂乳固形分9.2kg／年、乳蛋白質2.9kg／年）以上の遺伝的能力を有する改良用雌牛を生産する。	サ ホルスタイン種について、未経産ドナーの集合検定システムを活用することにより、家畜改良増殖目標である年当たり改良量（乳量113kg／年、乳脂肪2.6kg／年、無脂乳固形分9.2kg／年、乳蛋白質2.9kg／年）以上に遺伝的能力が向上した改良用雌牛を生産する。	指標＝遺伝的改良量 S：計画の120%以上であり、かつ、特に優れた成果が認められる。 A：計画の120%以上 B：計画の100%以上、120%未満 C：計画の80%以上、100%未満 D：計画の80%未満、又は業務運営の改善等必要な措置が必要と認められる。	<主要な業務実績> ホルスタイン種について、未経産ドナーの集合検定システムを活用することにより、センターが2011年に生産した改良用雌牛の年当たり改良量は、2007年に生産した雌牛を基準として、乳量186.6kg／年、乳脂肪7.5kg／年、無脂乳固形分15.7kg／年、乳蛋白質5.9kg／年となり、いずれの形質についても家畜改良増殖目標に掲げられた年当たり改良量を1.5倍以上上回る改良を行うことができた。	<評定と根拠> 「B」 根拠： ・改良用雌牛の年当たり改良量が指数値を上回った。	評定 A <評定に至った理由> センターにおいては、元々優れた資質の雌牛を飼養していることを参酌したとしても専門家の検討の下で策定された家畜改良増殖目標において提示された遺伝的改良量を大きく上回る能力を示す雌牛が生産されたことから「A」評定とした。 <その他事項> センターは、数値目標が設定している項目の全てを「B」と自己評価しているが、総務省が定めた新しい評価指針では、目標値に対する達成度合いが120%以上の項目は「A」と評価することとなっている。目標値の設定水準が適切であり、かつ、3カ年度の実績評価と矛盾が生じない評価も項目のうち120%以上の達成度合いが確認されたものは「A」への格上げを検討すべき。（有識者会議委員意見）

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(1)-シ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1) 乳用牛 シ 候補種雄牛の待機業務終了		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
									予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
									（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	（ウ）高い泌乳持続性を有する優良な候補種雄牛などを生産・供給するため、泌乳持続性の遺伝評価値が平均以上で、家畜改良増殖目標の育種価目標数値（乳量113kg／年、乳脂肪2.6kg／年、無脂乳固形分9.2kg／年、乳蛋白質2.9kg／年）以上の遺伝的能力を有する改良用雌牛を生産する。	（イ）酪農家の雌牛を利用して生産及び導入した候補種雄牛の待機業務は、平成27年度末までに終了する。	シ ホルスタイン種について、酪農家の雌牛を利用して生産導入した候補種雄牛の待機業務は、順次、縮小する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた。 A：計画を上回る成果が得られた。 B：計画どおり順調に実施された。 C：計画どおり実施されず改善を要する。 D：計画どおり実施されず当該業務の廃止を含めた抜本的な改善が必要と認められる。	＜主要な業務実績＞ ホルスタイン種について、酪農家の雌牛を利用して生産及び導入した候補種雄牛の待機業務を縮小し、計画どおり実施した。	＜評定と根拠＞ 「B」 根拠： ・計画どおり実施した。	評定 B ＜評定に至った理由＞ 計画どおり業務を縮小したことから「B」評定とした。

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-（2）	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 （2）肉用牛		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号、第2号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
									予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
									（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
					業務実績	自己評価			
	多様な消費者ニーズに応えた国産牛肉の安定的な供給と生産コストの低減を図っていくため、肉用牛改良は、肉質（脂肪交雑）や肉量に偏重した改良から、適度に脂肪交雑が入りつつも早熟性や飼料利用性などの新たな改良指標を重視した改良ヘシフトすることが必要である。また、近交係数の高まりを抑えるため、遺伝的に多様な種雄牛造成を進める必要がある。このため、以下の取組を行う。	多様な消費者ニーズに応えた国産牛肉の安定的な供給と生産コストの低減を図るため、肉用牛改良は、肉質（脂肪交雑）や肉量に偏重した改良から、適度に脂肪交雑が入りつつも早熟性や飼料利用性等の新たな改良指標を重視した改良ヘシフトすることが必要であり、早熟性や飼料利用性に着目した検定手法や遺伝的能力評価手法を開発し、優良な種畜生産に取り組む。また、近交係数の高まりを抑えるため、黒毛和種、褐毛和種及び日本短角種についてそれぞれ遺伝的に多様な牛群を整備しつつ、種畜等の供給を行う。このため、以下の取組を行う。	（2）肉用牛 ＜以下略＞	指標＝「細項目の項目数×2」（満点）に対する「各細項目の点数の合計値」（合計点）の比率 各細項目の評価点数の区分は以下のとおりとする。 S評価：4点、A評価：3点、B評価：2点、C評価：1点、D評価：0点 A：満点×12/10≦合計点 B：満点×8/10≦合計点 ＜満点×12/10 C：満点×5/10≦合計点 ＜満点×8/10 D：合計点≦満点×5／10	☐全国的な肉用牛の改良推進 2/2(B) ☐広域後代検定の推進 2/2(B) ☐肉用牛枝肉情報全国データベースによる情報提供 2/2(B) ☐遺伝的能力の評価・公表 2/2(B) ☐評価手法の改善 2/2(B) ☐黒毛和種の多様性確保及び候補種雄牛等の生産・供給 2/2(B) ☐増体性に優れる黒毛和種候補種雄牛の生産 2/2(B) ☐黒毛和種における飼料利用性早熟性等に関する検定手法の開発 2/2(B) ☐褐毛和種の多様性確保及び種畜の生産・供給 2/2(B) ☐日本短角種の多様性確保及び育種改良素材の生産・供給 2/2(B)	＜評価と根拠＞ 「B」 根拠：満点；20P（細項目10×2P） 合計：20P 20P／20P＝1.0（10／10）	評価 B ＜評価に至った理由＞ 下記のとおり、下位の評価項目である細項目の合計点がB評価の判定基準内（満点×8/10≦合計点＜12/10）であったため。 満点：24点（小項目12×2点） 合計点：24点＝2点×12 12点／12点＝1.0（10／10） ☐全国的な肉用牛の改良推進 2点(B) ☐広域後代検定の推進 2点(B) ☐肉用牛枝肉情報全国DBによる情報提供 2点(B) ☐遺伝的能力の評価・公表、 2点(B) ☐評価手法の改善 2点(B) ☐黒毛和種の多様性確保及び候補種雄牛等の生産・供給、 2点(B) ☐増体性に優れる黒毛和種候補種雄牛の生産 2点(B) ☐黒毛和種における飼料利用性早熟性等に関する検定手法の開発、 2点(B) ☐褐毛和種の多様性確保及び種畜の生産・供給 2点(B) ☐日本短角種の多様性確保及び育種改良素材の生産・供給、 2点(B) 合計点20点		

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(2)-ア	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2) 肉用牛 ア 全国的な肉用牛の改良推進		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ																
	①主要なアウトプット（アウトカム）情報								②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注							
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度		X5年度		H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	
											予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
											決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
											経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
											経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
											行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
											従事人員数	991	981	972	966	
											（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	(ア) 全国的な肉用牛の改良推進を図るため、農林水産省、都道府県、関係団体、生産者及び学識経験者との意見・情報交換において、積極的に指導的役割を果たすとともに、都道府県、関係団体などとの役割分担の明確化を図る。	(ア) 全国的な肉用牛の改良推進を図るため、センターが農林水産省、都道府県、関係団体、生産者及び学識経験者を参集して会議を開催し、我が国における家畜改良の方向性に沿ったセンターの業務のあり方について意見・情報交換を行い、業務に反映する。また、農林水産省、都道府県、関係団体等が開催する家畜改良に関する各種会議に積極的に参画し、技術的助言、連携協力を行う等指導的な役割を果たす。	ア 農林水産省、都道府県、関係団体、生産者及び学識経験者の参画を得て、全国的な肉用牛の改良推進に関する会議を開催し、センターが実施する遺伝的能力評価、種畜の作出等のあり方について意見・情報交換を行う。また、農林水産省、都道府県、関係団体等が開催する家畜改良に関する各種会議に積極的に参画する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた。 A：計画を上回る成果が得られた。 B：計画どおり順調に実施された。 C：計画どおり実施されず改善を要する。 D：計画どおり実施されず当該業務の廃止を含めた抜本的な改善が必要と認められる。	<主要な業務実績> 農林水産省、都道府県、関係団体、生産者及び学識経験者の参画を得て、全国的な肉用牛の改良推進に関する会議を3回開催し、センターが実施する遺伝的能力評価、種畜の作出のあり方について意見・情報交換等を行った。また、都道府県、関係団体等が開催する家畜改良に関する各種会議に積極的に参画し、計画どおり実施した。	<評定と根拠> 「B」 根拠： ・計画どおり実施した。	評定 B <評定に至った理由> 計画どおり、農林水産省、都道府県、関係団体、生産者及び学識経験者の参画を得て、全国会議を3回開催し、センターが実施する遺伝的能力評価、種畜の作出のあり方について意見・情報交換等を行う等全国的な肉用牛の改良推進に取り組んだことから「B」評定とした。

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(2)-イ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2) 肉用牛 イ 広域後代検定の推進		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ															
	①主要なアウトプット（アウトカム）情報								②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注						
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
										予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
										決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
										経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
										経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
										行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
										従事人員数	991	981	972	966	
										（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	(イ) 遺伝的能力の高い検定済種雄牛の広域的な利用を図るため、全国同一基準による評価を行う後代検定を推進する。	(イ) 毎年、全国同一基準による遺伝的能力評価を行い、この評価結果に基づいて選抜された能力の高い検定済種雄牛についてその精液の広域的な利用を推進する。	イ 広域後代検定に係る候補種雄牛について、検定データ及び血統データを収集・分析し、遺伝的能力評価を実施する。 遺伝的能力評価に基づき選定された後代検定済種雄牛について、都道府県に対する精液利用希望調査を実施するなどにより、その精液の広域流通を推進する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた。 A：計画を上回る成果が得られた。 B：計画どおり順調に実施された。 C：計画どおり実施されず改善を要する。 D：計画どおり実施されず当該業務の廃止を含めた抜本的な改善が必要と認められる。	<主要な業務実績> 広域後代検定に係る候補種雄牛のうち、平成26年度末までに後代検定が終了した36頭すべてについて、検定データ及び血統データを収集・分析し、遺伝的能力評価を実施した。また、遺伝的能力評価に基づき選定された後代検定済種雄牛について、都道府県に対する精液利用希望調査を実施するなどにより、その精液の広域流通を推進するなど、計画どおり実施した。	<評定と根拠> 「B」 根拠： ・計画どおり実施した。	評定 B ＜評定に至った理由＞ 計画どおり広域後代検定の推進に係る取組が実施されたことから「B」評定とした。

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(2)-ウ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2) 肉用牛 ウ 肉用牛枝肉情報全国データベースによる情報提供		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
									予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
									（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	(ア) 産肉能力に基づく改良を推進するため、枝肉情報を集計し、改良の基礎情報として提供する。	(ア) 産肉能力に基づく改良を推進するため、黒毛和種、褐毛和種及び日本短角種に係る肉用牛枝肉情報全国データベースに収集された枝肉情報を集計・分析し、改良の基礎情報として関係機関に毎年提供する。	ウ 産肉能力に基づく改良を推進するため、黒毛和種、褐毛和種及び日本短角種に係る肉用牛枝肉情報全国データベースに収集された枝肉情報を集計・分析し、改良の基礎情報として関係機関に提供する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた。 A：計画を上回る成果が得られた。 B：計画どおり順調に実施された。 C：計画どおり実施されず改善を要する。 D：計画どおり実施されず当該業務の廃止を含めた抜本的な改善が必要と認められる。	＜主要な業務実績＞ 黒毛和種、褐毛和種及び日本短角種に係る肉用牛枝肉情報全国データベースに収集された枝肉情報を集計・分析し、関係機関に提供し、計画どおり実施した。	＜評定と根拠＞ 「B」 根拠： ・計画どおり実施した。	評定 B ＜評定に至った理由＞ 計画どおり、肉用牛枝肉情報全国データベースに収集された枝肉情報を収集分析し、関係機関への提供を実施したことから「B」評定とした。

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(2)-エ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2) 肉用牛 エ 遺伝的能力の評価・公表		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
									予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
									（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	(イ) 全国の改良動向を把握するため、遺伝的能力を定期的に評価し、公表する。	(イ) 全国の改良動向を把握するため、肉用牛枝肉情報全国データベースに蓄積された情報等から、黒毛和種、褐毛和種及び日本短角種の遺伝的能力を定期的に評価し、毎年公表する。	エ 全国の改良動向を把握するため、肉用牛枝肉情報全国データベースに蓄積された情報等から、黒毛和種、褐毛和種及び日本短角種の遺伝的能力を評価し、公表する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた。 A：計画を上回る成果が得られた。 B：計画どおり順調に実施された。 C：計画どおり実施されず改善を要する。 D：計画どおり実施されず当該業務の廃止を含めた抜本的な改善が必要と認められる。	<主要な業務実績> 肉用牛枝肉情報全国データベースに蓄積された情報などから、黒毛和種、褐毛和種及び日本短角種の遺伝的能力を評価・公表し、計画どおり実施した。	<評定と根拠> 「B」 根拠： ・計画どおり実施した。	評定 B <評定に至った理由> 計画どおり、黒毛和種、褐毛和種等の遺伝的能力の評価公表を実施したことから「B」評定とした。

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(2)-オ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2) 肉用牛 オ 評価手法の改善		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ														
① 要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
									予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
									（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	(ウ) 肉質以外の早熟性、飼料利用性及び繁殖性に係る形質を評価に加味するなど、新たな評価手法の導入に向けた取組を行う。	(ウ) 遺伝的能力評価手法について、肉質以外の早熟性、飼料利用性及び繁殖性に係る形質データの収集状況を踏まえ、遺伝的能力の評価技術に関する検討会を毎年開催し、新たな評価手法の導入に向けた取組を行う。	オ 遺伝的能力の評価技術に関する検討会を開催し、早熟性及び繁殖性の遺伝的能力評価手法の検討を行う。また、飼料利用性について、日齢枝肉重量とその他枝肉形質間の遺伝相関の検討を行う。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた。 A：計画を上回る成果が得られた。 B：計画どおり順調に実施された。 C：計画どおり実施されず改善を要する。 D：計画どおり実施されず当該業務の廃止を含めた抜本的な改善が必要と認められる。	＜主要な業務実績＞ 遺伝的能力の評価技術に関する検討会を開催し、早熟性及び繁殖性の遺伝的能力評価方法の検討を行うとともに、飼料利用性について、日齢枝肉重量とその他の枝肉形質間の遺伝相関等の検討を行い、計画どおり実施した。	＜評定と根拠＞ 「B」 根拠： ・計画どおり実施した。	評定 B ＜評定に至った理由＞ 計画どおり新たな遺伝的能力評価方法の検討が実施されたことから「B」評定とした。

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(2)-カ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2) 肉用牛 カ 黒毛和種の多様性確保及び候補種雄牛等の生産・供給		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号、第2号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ														
① 要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
									予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
									（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
					業務実績	自己評価	評価	B
	（ア）黒毛和種については、 ① 多様な育種素材及び都道府県や民間では取り組み難い高度な技術を活用し、遺伝的に特徴ある牛群を維持するとともに、我が国の遺伝的多様性の確保や増体性などに配慮した優良な候補種雄牛などを生産する。 ② 遺伝的多様性の確保のため、和牛の基礎となる4系統群や今後失われることが懸念される5つの希少系統など※2を積極的に活用し、牛群整備を行う。 ③ 増体性に優れた候補種雄牛の生産に当たっては、直接検定成績において1日当たり増体量が概ね1.1kg以上の候補種雄牛を生産する。 ④ 飼料利用性、早熟性などに関する検定手法の開発に取り組む。 ＜以下略＞	（ア）黒毛和種について、多様な育種素材の導入を行い、基礎となる4系統群や5つの希少系統を積極的に活用することにより遺伝的に特徴ある牛群を維持するとともに、民間等では取り組み難い生体卵胞卵子吸引技術、体外受精技術等の高度な技術を活用し、遺伝的多様性の確保や増体性等に配慮した優良な候補種雄牛等を生産・供給する。 ＜以下略＞	カ 黒毛和種の基礎となる4系統群や5つの希少系統の育種素材を収集することにより遺伝的に特徴ある牛群を整備するとともに、遺伝的多様性の確保や増体性等に配慮した優良な候補種雄牛等を生産・供給する。この場合、民間等では取り組み難い生体卵胞卵子吸引技術、体外受精技術等を活用する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた。 A：計画を上回る成果が得られた。 B：計画どおり順調に実施された。 C：計画どおり実施されず改善を要する。 D：計画どおり実施されず当該業務の廃止を含めた抜本的な改善が必要と認められる。	＜主要な業務実績＞ 黒毛和種の基礎となる4系統群や5つの希少系統の育種素材を収集し、牛群を整備するとともに、民間等では取り組み難い生体卵胞卵子吸引技術、体外受精技術等の高度な技術を活用し、遺伝的多様性の確保や増体性等に配慮した優良な候補種雄牛等を生産し、21頭の候補種雄牛を供給し、計画どおり実施した。	＜評定と根拠＞ 「B」 根拠： ・計画どおり実施した。	評価 B ＜評定に至った理由＞ 計画どおり、牛群の整備等を通じて黒毛和種の多様性確保及び候補種雄牛等の生産・供給に取り組んだところから「B」評定とした。	

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(2)-キ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2) 肉用牛 キ 増体性に優れる黒毛和種候補種雄牛の生産		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号、第2号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ															
	①主要なアウトプット（アウトカム）情報								②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注						
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
										予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
										決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
										経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
										経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
										行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
										従事人員数	991	981	972	966	
										（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
					業務実績	自己評価		
	（ア）黒毛和種については、 ① 多様な育種素材及び都道府県や民間では取り組み難い高度な技術を活用し、遺伝的に特徴ある牛群を維持するとともに、我が国の遺伝的多様性の確保や増体性などに配慮した優良な候補種雄牛などを生産する。 ② 遺伝的多様性の確保のため、和牛の基礎となる4系統群や今後失われることが懸念される5つの希少系統など※2を積極的に活用し、牛群整備を行う。 ③ 増体性に優れた候補種雄牛の生産に当たっては、直接検定成績において1日当たり増体量が概ね1.1kg以上の候補種雄牛を生産する。 ④ 飼料利用性、早熟性などに関する検定手法の開発に取り組む。 ＜以下略＞	（イ）増体性に優れた黒毛和種候補種雄牛の生産に当たっては、適度に脂肪交雑を維持しつつ、毎年遺伝的能力評価等を活用することにより、直接検定成績において1日当たり増体量が概ね1.1kg以上の候補種雄牛を生産する。	キ 増体性に優れた黒毛和種候補種雄牛の生産に当たっては、直接検定成績において1日当たり増体量が概ね1.1kg以上の候補種雄牛を生産する。	指標＝1日あたり増体量 S：計画の120%以上であり、かつ、特に優れた成果が認められる。 A：計画の120%以上 B：計画の100%以上、120%未満 C：計画の80%以上、100%未満 D：計画の80%未満、又は業務運営の改善等必要な措置が必要と認められる。	＜主要な業務実績＞ 増体性に優れた黒毛和種候補種雄牛を生産するため、遺伝子保有率等を活用して選抜した雄子牛16頭について直接検定☆を実施した。これら16頭の1日当たり増体量の平均値は1.13kgであり、目標の1.1kg以上を達成した。	＜評定と根拠＞ 「B」 根拠： ・直接検定を実施16頭の1日当たり増体量の平均値は1.13kgであり、目標の1.1kg以上を達成した。	評定	B ＜評定に至った理由＞ 計画どおり、目標を満たす増体能力を有する候補種雄牛が生産されたことから「B」評定とした。

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-（2）-ク	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 （2）肉用牛 ク 黒毛和種における飼料利用性、早熟性等に関する検定手法の開発		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
									予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
									（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
					業務実績	自己評価	評価	
	（ア） 黒毛和種については、 ① 多様な育種素材及び都道府県や民間では取り組み難い高度な技術を活用し、遺伝的に特徴ある牛群を維持するとともに、我が国の遺伝的多様性の確保や増体性などに配慮した優良な候補種雄牛などを生産する。 ② 遺伝的多様性の確保のため、和牛の基礎となる4系統群や今後失われることが懸念される5つの希少系統など※2を積極的に活用し、牛群整備を行う。 ③ 増体性に優れた候補種雄牛の生産に当たっては、直接検定成績において1日当たり増体量が概ね1.1kg以上の候補種雄牛を生産する。 ④ 飼料利用性、早熟性などに関する検定手法の開発に取り組む。	（ウ） 飼料利用性、早熟性等に関して、これらに係る形質データの収集を継続的に行い、検討会を毎年開催し、検定手法の開発に取り組む。	ク 黒毛和種の飼料利用性、早熟性等について、これら形質データを収集するため、調査を行うとともに、有識者等から構成される検討会を開催する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた。 A：計画を上回る成果が得られた。 B：計画どおり順調に実施された。 C：計画どおり実施されず改善を要する。 D：計画どおり実施されず当該業務の廃止を含めた抜本的な改善が必要と認められる。	＜主要な業務実績＞ 黒毛和種の飼料利用性、早熟性等について、これらに係る形質データを収集するための調査を行うとともに、学識経験者などから構成される検討会を平成26年12月に開催し、検定手法について検討するとともに、調査牛を65頭生産し、また、平成26年4月までに生産した調査牛48頭の調査を開始し、計画どおり実施した。	＜評価と根拠＞ 「B」 根拠： ・計画どおり実施した。	評価 B ＜評価に至った理由＞ 計画どおり検定手法の開発に向けた検討会の開催や飼料利用性等の調査に都K取り組んだことから「B」評価とした。	

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(2)-ケ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2) 肉用牛 ケ 褐毛和種の多様性確保及び種畜の生産・供給		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号、第2号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
									予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
									（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	(イ) 褐毛和種については、我が国の肉用牛の多様性を確保するため、遺伝的に特徴のある牛群を維持し、種畜を生産・供給する。	(エ) 褐毛和種について、関係都道府県等より育種素材を収集することにより、多様な育種素材の導入を行い、遺伝的に特徴のある牛群を維持し、卵巣から採取した卵子を利用した体外受精技術等の民間等では取り組み難い高度な技術を活用しつつ、種畜を生産・供給する。	ケ 褐毛和種について、多様な育種素材を収集することにより遺伝的に特徴のある牛群を維持し、種畜を生産・供給する。この場合、卵巣から採取した卵子を利用した体外受精等の高度な技術を活用する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた。 A：計画を上回る成果が得られた。 B：計画どおり順調に実施された。 C：計画どおり実施されず改善を要する。 D：計画どおり実施されず当該業務の廃止を含めた抜本的な改善が必要と認められる。	<主要な業務実績> 褐毛和種について、関係都道府県等より多様な育種素材を収集し、牛群を維持するとともに、卵巣から採取した卵子を利用した体外受精等の高度な技術を活用して種畜を生産し、後代検定候補種雄牛として1頭を供給し、計画どおり実施した。	<評定と根拠> 「B」 根拠： ・計画どおり実施した。	評定 B ＜評定に至った理由＞ 計画どおり育種素材の収集、種畜の生産供給を実施したことから「B」評定とした。

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(2)-コ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2) 肉用牛 コ 日本短角種の多様性確保及び育種改良素材の生産・供給		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号、第2号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット（アウトカム）情報										②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注				
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
									予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
									（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	（ウ）日本短角種については、我が国の肉用牛の多様性を確保するため、遺伝的に特徴のある牛群を維持し、センターの保有する家畜を、育種改良素材として必要に応じて提供する。	（オ）日本短角種については、我が国の肉用牛の多様性を確保するため、関係都道府県等より育種素材を収集することにより、遺伝的に特徴のある牛群を維持し、育種改良素材を生産・供給する。	コ 日本短角種について、遺伝的に特徴のある牛群を維持し、育種改良素材を必要に応じて生産・供給する。この場合、必要に応じて関係都道府県等と協議しつつ育種素材を収集する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた。 A：計画を上回る成果が得られた。 B：計画どおり順調に実施された。 C：計画どおり実施されず改善を要する。 D：計画どおり実施されず当該業務の廃止を含めた抜本的な改善が必要と認められる。	＜主要な業務実績＞ 日本短角種について、「日本短角種の振興に係る意見交換会」を平成27年2月に開催するなど、関係都道府県等と協議しつつ遺伝的に特徴のある牛群を維持し、育種改良素材を必要に応じて生産・供給し、計画どおり実施した。	＜評定と根拠＞ 「B」 根拠： ・計画どおり実施した。	評定 B ＜評定に至った理由＞ 計画どおり、育種素材の生産供給を実施したことから「B」評定とした。

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-（3）	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 （3）豚		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号、第2号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
									予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
									（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	国際化の進展や長期的な飼料穀物需給のひっ迫などに対応した競争力のある豚肉生産を維持するため、純粋種豚の繁殖能力や肉質を含めた産肉能力の向上を図り、特長ある豚肉の生産に向けた改良を推進する。このため、以下の取組を行う。	国際化の進展や長期的な飼料穀物需給のひっ迫等に対応した競争力のある豚肉生産を維持するため、遺伝子解析技術を駆使して繁殖能力に優れる雌系純粋種豚の改良を進めるとともに、ロース芯筋内脂肪含量が多い雄系純粋種豚の改良を進める。このため、以下の取組を行う。	（3）豚 ＜以下略＞	指標＝「細項目の項目数×2」（満点）に対する「各細項目の点数の合計値」（合計点）の比率各細項目の評価点数の区分は以下のとおりとする。 S評価：4点、A評価：3点、B評価：2点、C評価：1点、D評価：0点 A：満点×12/10≦合計点 B：満点×8/10≦合計点＜満点×12/10 C：満点×5/10≦合計点＜満点×8/10 D：合計点≦満点×5/10	☐全国的な豚の改良推進 2/2(B) ☐遺伝的能力の評価の実施・公表 2/2(B) ☐評価手法の改善 2/2(B) ☐雌系品種の繁殖性改良 2/2(B) ☐雄系品種の肉質改良 2/2(B) ☐実験用小型ブタの維持・供給 2/2(B)	＜評価と根拠＞ 「B」 満点：12P（細項目6×2P） 合計：12P 12P／12P ＝1.0（10／10）	評価 B ＜評価に至った理由＞ 下記のとおり、下位の評価項目である細項目の合計点がB評価の判定基準内（満点×8/10≦合計点＜12/10）であったため。 満点：12点（小項目6×2点） 合計点：12点＝2点×6 12点／12点＝1.0（10／10） ☐全国的な豚の改良推進 2点(B) ☐遺伝的能力の評価の実施・公表 2点(B) ☐評価手法の改善 2点(B) ☐雌系品種の繁殖性改良 2点(B) ☐雄系品種の肉質改良 2点(B) ☐実験用小型ブタの維持・供給 2点(B) 合 計 点 12点

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(3)-ア	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (3) 豚 ア 全国的な豚の改良推進		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ											
	①主要なアウトプット（アウトカム）情報										
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			
									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注		
										H23年度	H24年度
									H25年度	H26年度	H27年度
									予算額（千円）	8,682,884	8,967,108
									決算額（千円）	9,127,037	8,572,227
									経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109
									経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573
									行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327
									従事人員数	991	981
									（うち常勤職員）	(807)	(790)

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	(ア) 全国的な豚の改良推進を図るため、農林水産省、都道府県、関係団体、生産者及び学識経験者との意見・情報交換において、積極的に指導的役割を果たすとともに、都道府県、関係団体などとの役割分担の明確化を図る。	(ア) 全国的な豚の改良推進を図るため、センターが農林水産省、都道府県、関係団体、生産者及び学識経験者を参集して会議を開催し、我が国における家畜改良の方向性に沿ったセンターの業務のあり方について意見・情報交換を行い、業務に反映する。また、農林水産省、都道府県、関係団体等が開催する家畜改良に関する各種会議に積極的に参画し、技術的助言、連携協力を行う等指導的な役割を果たす。	ア 農林水産省、都道府県、関係団体、生産者及び学識経験者の参画を得て、全国的な豚の改良推進に関する会議を開催し、センターが実施する遺伝的能力評価、種豚の作出のあり方について意見・情報交換を行う。また、農林水産省、都道府県、関係団体等が開催する家畜改良に関する各種会議に積極的に参画する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた。 A：計画を上回る成果が得られた。 B：計画どおり順調に実施された。 C：計画どおり実施されず改善を要する。 D：計画どおり実施されず当該業務の廃止を含めた抜本的な改善が必要と認められる。	<主要な業務実績> 農林水産省、都道府県、関係団体、生産者及び学識経験者の参画を得て、全国的な豚の改良推進に関する会議を平成27年2月に開催し、センターが実施する遺伝的能力評価、種豚の作出のあり方について意見・情報交換等を行った。また、試験研究機関及び関係団体が開催する家畜改良に関する各種会議に積極的に参画し、計画どおり実施した。	<評定と根拠> 「B」 根拠： ・計画どおり実施した。	評定 B <評定に至った理由> 農林水産省、都道府県、関係団体、生産者及び学識経験者の参画を得て豚の改良推進に関する会議を開催する等全国的な豚の改良推進に取り組んだことから「B」評定とした。

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(3)-イ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (3) 豚 イ 遺伝的能力の評価の実施・公表		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ															
	①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
	指標等	達成目標	基準値	X 1 年度	X 2 年度	X 3 年度	X 4 年度	X 5 年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
										予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
										決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
										経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
										経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
										行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
										従事人員数	991	981	972	966	
										（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	パークシャー種などについて、遺伝的能力評価を定期的実施するとともに、肢蹄について遺伝的能力評価手法の開発に取り組む。	(ア) パークシャー種、ランドレース種、大ヨークシャー種及びデュロック種について、種豚の遺伝的能力評価を毎年4回定期的に実施し公表する	イ パークシャー種、ランドレース種、大ヨークシャー種及びデュロック種について、種豚の遺伝的能力評価を4回定期的に実施し公表する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた。 A：計画を上回る成果が得られた。 B：計画どおり順調に実施された。 C：計画どおり実施されず改善を要する。 D：計画どおり実施されず当該業務の廃止を含めた抜本的な改善が必要と認められる。	<主要な業務実績> パークシャー種、ランドレース種、大ヨークシャー種及びデュロック種について、種豚の遺伝的能力評価を4回定期的に実施し公表するなど、計画どおり順調に実施した。	<評定と根拠> 「B」 根拠： ・計画どおり実施した。	評定 B ＜評定に至った理由＞ 計画どおり、主要品種の種豚の遺伝的評価を定期的に実施し、公表したことから「B」評定とした。

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(3)-ウ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (3) 豚 ウ 評価手法の改善		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
									予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
									（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	バークシャー種などについて、遺伝的能力評価を定期的実施するとともに、肢蹄について遺伝的能力評価手法の開発に取り組む。	(イ) 遺伝的能力の評価技術に関する検討会を毎年開催し、肢蹄のつなぎに関するデータを収集し、このデータを活用して遺伝的能力評価手法の開発に必要な遺伝的パラメータを平成27年度末までに推定する。	ウ 遺伝的能力の評価技術に関する検討会を開催し、肢蹄のつなぎに関するデータ収集に取り組みつつ遺伝的能力評価手法の検討を行う。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた。 A：計画を上回る成果が得られた。 B：計画どおり順調に実施された。 C：計画どおり実施されず改善を要する。 D：計画どおり実施されず当該業務の廃止を含めた抜本的な改善が必要と認められる。	<主要な業務実績> 遺伝的能力の評価技術に関する検討会を開催し、収集した肢蹄のつなぎに関するデータをもとに遺伝的能力評価手法の検討を行い、計画どおり実施した。	<評定と根拠> 「B」 根拠： ・計画どおり実施した。	評定 B ＜評定に至った理由＞ 計画どおり、豚の遺伝的能力手法の開発に取り組んでいることから「B」評価とした。

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(3)-エ	第2 業務の質の向 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (3) 豚 エ 雌系品種の繁殖性改良		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ																	
	①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注							
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度				H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	
												予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
												決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
												経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
												経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
												行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
												従事人員数	991	981	972	966	
												（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
					業務実績	自己評価		
	(ア) 増体性や飼料利用性の改良のほか、繁殖性の向上を図るため、雌系品種として利用される大ヨークシャー種について、遺伝子解析技術を活用した新たな育種手法の開発に取り組み、繁殖能力に優れる種豚を作出する。この場合、一腹当たり育成頭数については、概ね10.5頭とする。	(ア) 増体性や飼料利用性の改良のほか、繁殖性の向上を図るため、雌系品種として利用される大ヨークシャー種について、雌豚群120頭規模の改良用群を造成し、より早期の能力向上が可能となる開放的育種手法を活用するとともに、遺伝子解析技術を活用した新たな育種手法の開発に取り組み、得られた繁殖性に関する遺伝情報を活用することにより、繁殖能力に優れる種豚を作出する。この場合、一腹当たり育成頭数については、概ね10.5頭とする。	エ 繁殖能力に優れる種豚を作出するため、造成した大ヨークシャー種の改良用群について、繁殖性に関する遺伝情報を活用した選抜を実施するとともに、選抜の効果を実証するための交配を実施する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた。 A：計画を上回る成果が得られた。 B：計画どおり順調に実施された。 C：計画どおり実施されず改善を要する。 D：計画どおり実施されず当該業務の廃止を含めた抜本的な改善が必要と認められる。	<主要な業務実績> 繁殖能力に優れる種豚を作出するため、開放的育種手法により造成した大ヨークシャー種の改良用群について、繁殖性の改良に有意な遺伝子情報を活用した選抜（一次選抜時）を実施するとともに、選抜の効果を実証するための交配を行い、計画どおり実施した。	<評定と根拠> 「B」 根拠： ・計画どおり実施した。 ・繁殖性の改良に有意な遺伝子情報を活用した選抜を行い、選抜の効果を実証するための交配を実施した。 ・繁殖性の検証は平成27年度に実施する。	評定	B ＜評定に至った理由＞ 計画どおり大ヨークシャー種の育種選抜に取り組んだことから「B」評定とした。

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(3)-オ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (3) 豚 オ 雄系品種の肉質改良		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
									予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
									（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
					業務実績	自己評価			
	（イ） 都道府県などが行う系統造成を支援するため、雄系品種として利用されるデュロック種について、肉質に優れた種豚の作出に取り組む。この場合、ロース芯筋内脂肪含量については、概ね6％とする。	（イ） 都道府県等が行う系統造成を支援するため、雄系品種として利用されるデュロック種について、雄10頭・雌30頭規模の改良用豚群を造成し、群内の血縁を高め、能力のバラツキが小さくなる閉鎖的育種手法を活用することにより、肉質に優れた種豚の作出に取り組む。この場合、ロース芯筋内脂肪含量については、概ね6％とする。	オ 肉質に優れた種豚を作出するため、デュロック種について、雄10頭、雌30頭規模の改良用豚群を用いて、閉鎖的育種手法により、次世代の選抜、交配、次世代候補豚の生産及び検定を行う。この場合、次世代候補豚の検定に当たっては、きょうだい豚についてと体調査及び肉質の理化学分析を実施する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた。 A：計画を上回る成果が得られた。 B：計画どおり順調に実施された。 C：計画どおり実施されず改善を要する。 D：計画どおり実施されず当該業務の廃止を含めた抜本的な改善が必要と認められる。	＜主要な業務実績＞ 肉質に優れた種豚を作出するため、デュロック種について、雄10頭、雌30頭規模の改良用豚群を用いて、閉鎖的育種手法により第4世代の選抜、交配、第5世代候補豚の生産及び産肉能力検定を行うとともに、きょうだい豚のと体調査及び肉質の理化学分析を行い、計画どおり実施した。	＜評定と根拠＞ 「B」 根拠： ・計画どおり実施した。	評定	B	＜評定に至った理由＞ 計画どおり、デュロック種について、肉質に優れた種豚の作出に取り組んだことから「B」評定とした。

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(3)-カ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (3) 豚 カ 実験用子型ブタの維持・供給		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号、第2号 家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
									予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
									（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	(ウ) 実験用小型ブタについて、造成を完了した系統の維持及び種豚などの供給業務に重点化する。	(ウ) 実験用小型ブタについて、造成を完了した系統（小型白色系：雄5頭・雌20頭規模、中型淡色系：雄3頭・雌15頭規模、中型貧毛系：雄3頭・雌15頭規模の系統維持群）の維持及び種豚等の供給を行う。また、新たな系統の造成は行わない。	カ 実験用小型ブタについて、民間等との意見・情報交換を行いつつ、造成を完了した系統の維持及び種豚等の供給を行う。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた。 A：計画を上回る成果が得られた。 B：計画どおり順調に実施された。 C：計画どおり実施されず改善を要する。 D：計画どおり実施されず当該業務の廃止を含めた抜本的な改善が必要と認められる。	<主要な業務実績> 実験用小型ブタについて、医科系大学、民間小型豚生産者、民間実験動物販売者等と飼養管理、衛生管理等について、意見・情報交換等を行った。また、造成を完了した3系統を維持するとともに種豚等を93頭供給し、計画どおり実施した。	<評価と根拠> 「B」 根拠： ・計画どおり実施した。	評価 B <評価に至った理由> 計画どおり、実験用小型豚の新たな造成の中止と造成が終了した系統の維持及び種豚等の供給が実施されたことから「B」評価とした。

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-（4）	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 （4）鶏		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、鶏の改良増殖目標	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号、第2号
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ															
	①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
											予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261
											決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191
											経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680
											経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619
											行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420
											従事人員数	991	981	972	966
											（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
					業務実績	自己評価			
	国際化の進展や長期的な飼料穀物需給のひっ迫等に対応するとともに、全国各地で行われている在来種等を利用した特色ある鶏の能力向上を図るため、飼料利用性の改良に留意しつつ、卵用鶏の産卵性や肉用鶏の増体性の改良を推進する。また、センターが保有する多数の品種・系統を活用して、地域における地鶏・銘柄鶏の振興を支援する。このため、以下の取組を行う。	国際化の進展や長期的な飼料穀物需給のひっ迫等に対応するとともに、全国各地で行われている在来種等を利用した特色ある鶏の能力向上を図るため、飼料利用性の改良に留意しつつ、卵用鶏の産卵性や肉用鶏の増体性の改良を推進する。また、センターが保有する多数の品種・系統を活用して、地域における地鶏・銘柄鶏の振興を支援する。このため、以下の取組を行う。	（4） 鶏 ＜以下略＞	指標＝「細項目の項目数×2」（満点）に対する「各細項目の点数の合計値」（合計点）の比率 各細項目の評価点数の区分は以下のとおりとする。 S評価：4点、A評価：3点、B評価：2点、C評価：1点、D評価：0点 A：満点×12/10≦合計点 B：満点×8/10≦合計点<満点×12/10 C：満点×5/10≦合計点<満点×8/10 D：合計点≦満点×5/10	□全国的な国産鶏の改良推進 2/2(B) □種鶏開発の重点化 2/2(B) □卵用鶏の産卵性改良 2/2(B) □卵用鶏の卵質改良 2/2(B) □肉用鶏の増体性改良 2/2(B) □肉用鶏の羽装改良 2/2(B) □組合せ検定の実施 2/2(B)	＜評価と根拠＞ 「B」 満点：14P（細項目7×2P） 合計：14 P 14P/14P＝1.0（10/10）	評価	B	＜評価に至った理由＞ 下記のとおり、下位の評価項目である細項目の合計点がB評価の判定基準内（満点×8/10≦合計点<12/10）であったため。 満点：14点（小項目7×2点） 合計点：15点＝2点×6＋3点 15点/14点＝1.07（10.7/10） □全国的な国産鶏の改良推進 2点（B） □種鶏開発の重点化 2点（B） □卵用鶏の産卵性改良 2点（B） □卵用鶏の卵質改良 2点（B） □肉用鶏の増体性改良 3点（A） □肉用鶏の羽装改良 2点（B） □組合せ検定の実施 2点（B） 合 計 点15点

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(4)-ア	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (4) 鶏 ア 全国的な国産鶏の改良推進		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、鶏の改良増殖目標	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット（アウトカム）情報										②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注				
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
									予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
									（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	（ア）全国的な国産鶏の改良推進を図るため、農林水産省、都道府県、関係団体、生産者及び学識経験者との意見・情報交換において、積極的に指導的役割を果たすとともに、都道府県、関係団体などの役割分担の明確化を図る。	（ア） 全国的な国産鶏の改良推進を図るため、センターが農林水産省、都道府県、関係団体、生産者及び学識経験者を参集して会議を開催し、我が国における家畜改良の方向性に沿ったセンターの業務のあり方について意見・情報交換を行い、業務に反映する。また、農林水産省、都道府県、関係団体等が開催する家畜改良に関する各種会議に積極的に参画し、技術的助言、連携協力を行う等指導的な役割を果たす。	ア 農林水産省、都道府県、関係団体、生産者及び学識経験者の参画を得て、全国的な鶏の改良推進に関する会議を開催し、センターが実施する種鶏の改良等のあり方について意見・情報交換を行う。また、農林水産省、都道府県、関係団体等が開催する家畜改良に関する各種会議に積極的に参画する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた。 A：計画を上回る成果が得られた。 B：計画どおり順調に実施された。 C：計画どおり実施されず改善を要する。 D：計画どおり実施されず当該業務の廃止を含めた抜本的な改善が必要と認められる。	＜主要な業務実績＞ 農林水産省、都道府県、関係団体、生産者及び学識経験者の参画を得て、全国的な鶏の改良推進に関する会議を開催し、センターが実施する種鶏の改良等のあり方について意見・情報交換等を行った。また、関係団体等が開催する家畜改良に関する各種会議に積極的に参画し、計画どおり実施した。	＜評定と根拠＞ 「B」 根拠： ・計画どおり実施した。	評定 B ＜評定に至った理由＞ 農林水産省、都道府県、関係団体、生産者及び学識経験者が参画した改良推進会議を開催等全国的な国産鶏の改良推進に取り組んだことから「B」評定とした。

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(4)-イ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (4) 鶏 イ 種鶏開発の重点化		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、鶏の改良増殖目標	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号、第2号
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット（アウトカム）情報										②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注				
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
									予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
									（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
					業務実績	自己評価		
	(イ) 在来種などとの交配に適したセンター産種鶏の開発に重点化した改良を進めるとともに、産卵性や増体性の向上も目指す。	(イ) 在来種等との交配に適したセンター産種鶏の開発に取り組み、また、需要が見込まれない系統を減らす一方、高い需要のある系統を増やすことにより、生体で維持する系統のうち2系統を縮減する。この場合、各系統についてイの取り組みにより、飼料利用性に留意しつつ、産卵性や産肉性の向上に取り組む。	イ 在来種等との交配に適したセンターの種鶏について、系統数を維持する。また、各系統についてウからカの取り組みにより、飼料利用性に留意しつつ、産卵性や産肉性の向上に取り組む。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた。 A：計画を上回る成果が得られた。 B：計画どおり順調に実施された。 C：計画どおり実施されず改善を要する。 D：計画どおり実施されず当該業務の廃止を含めた抜本的な改善が必要と認められる。	<主要な業務実績> 在来種等との交配に適したセンターの種鶏について、既開発した系統数を維持した。また、各系統について遺伝的能力評価技術、遺伝子解析技術等を活用した取組により、飼料利用性に留意しつつ、卵用鶏の産卵性や肉用鶏の産肉性の向上に取り組む、計画どおり実施した。	<評定と根拠> 「B」 根拠： ・計画どおり実施した。	評定	B
							<評定に至った理由> 計画どおり在来種等の交配に適した種鶏の開発等に取り組んだことから「B」評定とした。	

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(4)-ウ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (4) 鶏 ウ 卵用鶏の産卵性改良		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、鶏の改良増殖目標	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ															
	①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
										予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
										決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
										経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
										経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
										行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
										従事人員数	991	981	972	966	
										（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	(ア) 卵用鶏の産卵性を改良する。特に、主要白玉系統について、センター産種鶏の後期産卵率の育種価を概ね5ポイント改善する。また、主要赤玉系統については、肉斑の発生率の低減などの卵質を改善する。	(ア) 卵用鶏の産卵性を改良する。特に、主要白玉系統である白色レグホーン種について、1年1サイクルの世代更新により系統造成を行うとともに、長期検定手法（検定期間25～59週齢時まで）を活用することにより、センター産種鶏の後期産卵率（44～59週齢時の産卵率）の育種価を概ね5ポイント改善する。また、主要赤玉系統であるロードアイランドレッド種について、遺伝子解析技術を活用し、肉斑の発生率の低減のための選抜を毎年行う。	ウ 卵用鶏のうち主要白玉系統（白色レグホーン種）について、1年1サイクルの世代更新により系統造成を行うとともに、長期検定手法を活用することにより、後期産卵率の育種価を改善する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた。 A：計画を上回る成果が得られた。 B：計画どおり順調に実施された。 C：計画どおり実施されず改善を要する。 D：計画どおり実施されず当該業務の廃止を含めた抜本的な改善が必要と認められる。	<主要な業務実績> 卵用鶏のうち主要白玉系統（白色レグホーン種）について、1年1サイクルの世代更新により系統造成を行うとともに、長期検定手法を活用することにより、後期産卵率の育種価を改善し、計画どおり実施した。	<評定と根拠> 「B」 根拠： ・計画どおり実施した。	評定 B <評定に至った理由> 計画どおり、後期産卵率の育種価の改善に取り組んだことから「B」評定とした。

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(4)-エ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (4) 鶏 エ 卵用鶏の卵質改良		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、鶏の改良増殖目標	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ																
	①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注						
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	
											予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
											決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
											経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
											経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
											行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
											従事人員数	991	981	972	966	
											（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
					業務実績	自己評価	評価	B	
	(ア) 卵用鶏の産卵性を改良する。特に、主要白玉系統について、センター産種鶏の後期産卵率の育種価を概ね5ポイント改善する。また、主要赤玉系統については、肉斑の発生率の低減などの卵質を改善する。	(ア) 卵用鶏の産卵性を改良する。特に、主要白玉系統である白色レグホン種について、1年1サイクルの世代更新により系統造成を行うとともに、長期検定手法(検定期間25～59週齢時まで)を活用することにより、センター産種鶏の後期産卵率(44～59週齢時の産卵率)の育種価を概ね5ポイント改善する。また、主要赤玉系統であるロードアイランドレッド種について、遺伝子解析技術を活用し、肉斑の発生率の低減のための選抜を毎年行う。	エ 卵用鶏のうち主要赤玉系統（ロードアイランドレッド種）について、肉斑の発生率の低減のため、遺伝子解析技術を活用するなどにより選抜を行う。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた。 A：計画を上回る成果が得られた。 B：計画どおり順調に実施された。 C：計画どおり実施されず改善を要する。 D：計画どおり実施されず当該業務の廃止を含めた抜本的な改善が必要と認められる。	<主要な業務実績> 卵用鶏のうち主要赤玉系統（ロードアイランドレッド種）について、肉斑の発生率の低減のため、遺伝子解析技術を活用するなどにより選抜を行い、計画どおり実施した。	<評価と根拠> 「B」 根拠： ・計画どおり実施した。	評価	B	
<評価に至った理由> 計画どおり、肉斑の発生率低減のための選抜が実施されたことから「B」評価とした。									

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(4)-オ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (4) 鶏 オ 肉用鶏の増体性改良		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、鶏の改良増殖目標	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット（アウトカム）情報								②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注						
指標等	達成目標	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	
一次選抜時 体重の育種価	平成 27 年度産鶏において平成 22 年産鶏に 比して 150 g 改善								予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
白色コーニッシュ種	同 上	7 5 g 程度	1 4 6 g 程度	2 3 2 g 程度	2 8 5 g 程度			行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420		
赤色コーニッシュ種	同 上	6 0 g 程度	1 3 9 g 程度	2 2 3 g 程度	2 9 2 g 程度			従事人員数	991	981	972	966		
								（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)		

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	（イ）肉用鶏の増体性を改良する。特に、雄として利用される主要系統について、一次選抜時体重の育種価を概ね150g改善する。また、遺伝子解析技術を活用して、羽色の固定化に取り組む。	（イ）肉用鶏の増体性を改良する。特に、雄として利用される主要系統である白色コーニッシュ種について、6週齢の一次選抜時におけるデータを収集し、遺伝的能力評価による精度の高い選抜手法の活用により、一次選抜時体重の育種価を概ね150g改善する。 また、雌として利用される主要系統について、遺伝子解析技術を活用して、羽色の固定（白色プリマスロック種について他の品種を交配した際にひなの羽色が必ず交配した他の品種と同じ羽色となること）のための選抜を毎年行う。	オ 肉用鶏のうち主要雄系統（「はりま」、「たつの」の雄系）について、6週齢の一次選抜時におけるデータを収集し、遺伝的能力評価による精度の高い選抜手法を活用し、一次選抜時体重の育種価を改善する。	指標＝一次選抜時体重の育種価 S：計画の120%以上であり、かつ、特に優れた成果が認められる。 A：計画の120%以上 B：計画の100%以上、120%未満 C：計画の80%以上、100%未満 D：計画の80%未満、又は業務運営の改善等必要な措置が必要と認められる。	＜主要な業務実績＞ 肉用鶏のうち主要雄系統である白色コーニッシュ種（「はりま」の雄系）及び赤色コーニッシュ種（「たつの」の雄系）について、6週齢の一次選抜時におけるデータを収集し、遺伝的能力評価による精度の高い選抜手法を活用し、一次選抜時体重の育種価を概ね290g改善し、計画どおり実施した。	＜評定と根拠＞ 「B」 根拠： ・計画どおり実施した。	評定 A ＜評定に至った理由＞ 様々な技術的課題が発生する肉用鶏の増体性の改良において当初計画の目標値の2倍近い育種価の改善がみられたことから「A」評定とした。 ＜その他事項＞ センターは、数値目標が設定している項目の全てを「B」と自己評価しているが、総務省が定めた新しい評価指針では、目標値に対する達成度合いが 120%以上の項目は「A」と評価することとなっている。目標値の設定水準が適切であり、かつ、3カ年度の実績評価と矛盾が生じない評価も項目のうち 120%以上の達成度合いが確認されたものは「A」への格上げを検討すべき。（有識者会議委員意見）

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(4)-カ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (4) 鶏 カ 肉用鶏の羽装改良		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、鶏の改良増殖目標	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ															
	①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
										予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
										決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
										経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
										経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
										行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
										従事人員数	991	981	972	966	
										（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	(イ) 肉用鶏の増体性を改良する。特に、雄として利用される主要系統について、一次選抜時体重の育種価を概ね150g改善する。また、遺伝子解析技術を活用して、羽色の固定化に取り組む。	(イ) 肉用鶏の増体性を改良する。特に、雄として利用される主要系統である白色コーニッシュ種について、6週齢の一次選抜時におけるデータを収集し、遺伝的能力評価による精度の高い選抜手法の活用により、一次選抜時体重の育種価を概ね150g改善する。 また、雌として利用される主要系統について、遺伝子解析技術を活用して、羽色の固定（白色プリマスロック種について他の品種を交配した際にひなの羽色が必ず交配した他の品種と同じ羽色となること）のための選抜を毎年行う。	カ 肉用鶏のうち主要雌系統（白色プリマスロック種）について、遺伝子解析技術を活用し、赤色羽装の鶏と交配した際、その後代が必ず赤色となるよう選抜を行う。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた。 A：計画を上回る成果が得られた。 B：計画どおり順調に実施された。 C：計画どおり実施されず改善を要する。 D：計画どおり実施されず当該業務の廃止を含めた抜本的な改善が必要と認められる。	<主要な業務実績> 肉用鶏のうち主要雌系統（白色プリマスロック種）について、遺伝子解析技術を活用し、赤色羽装の鶏と交配した際、その後代が必ず赤色となるよう選抜を行い、計画どおり実施した。	<評定と根拠> 「B」 根拠： ・計画どおり実施した。	評定 B ＜評定に至った理由＞ 計画どおり、交配・選抜が実施されたことから「B」評定とした。

4. その他参考情報

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
第2-1-(4)-キ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (4) 鶏 キ 組合せ検定の実施		
業務に関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、鶏の改良増殖目標	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号
当該項目の重要度、難易度		関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号：0028 行政事業レビューシート事業番号：0035

2. 主要な経年データ															
	①主要なアウトプット（アウトカム）情報									②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報、法人全体）注					
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
										予算額（千円）	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
										決算額（千円）	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
										経常費用（千円）	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
										経常利益（千円）	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
										行政サービス実施コスト（千円）	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
										従事人員数	991	981	972	966	
										（うち常勤職員）	(807)	(790)	(785)	(765)	

注：業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	(ウ) 多様な品種・系統を用いた組合せ評価を行い、地鶏・銘柄鶏の生産に対する支援を行う。	(ウ) 地鶏・銘柄鶏の生産を支援するため、多様な品種・系統を用いた組合せ検定について、平成24年度末までに組合せ検定の実施のための条件を整備し、及び都道府県・民間の在来種の組合せに関するニーズを踏まえ、平成25年度からセンターが保有する概ね9系統の在来種等を利用して組合せ検定を行う。	キ 地鶏・銘柄鶏の生産を支援するため、センターが保有する在来種等を利用して組合せ検定を行い、育成成績、産卵成績等を公表する。	S：計画を大きく上回り、かつ顕著な成果が得られた。 A：計画を上回る成果が得られた。 B：計画どおり順調に実施された。 C：計画どおり実施されず改善を要する。 D：計画どおり実施されず当該業務の廃止を含めた抜本的な改善が必要と認められる。	<主要な業務実績> 地鶏・銘柄鶏の生産を支援するため、センターが保有する在来種等を利用して2組の組合せ検定を行い、育成成績、産卵成績等を公表し、計画どおり実施した。	<評定と根拠> 「B」 根拠： ・計画どおり実施した。	評定 B <評定に至った理由> 計画どおり、組合せ検定等が実施されたことから「B」評定とした。

4. その他参考情報